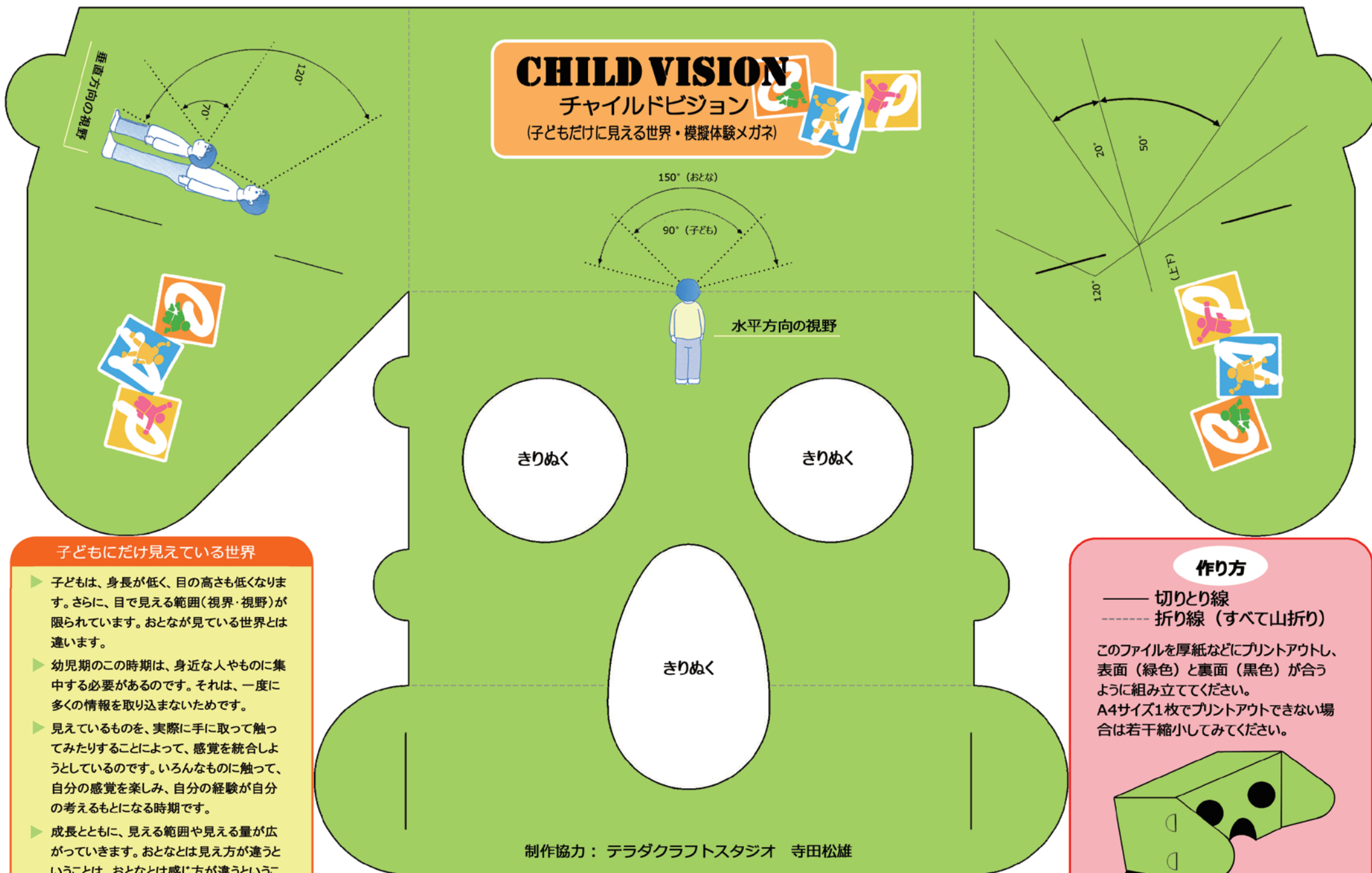




子どもにだけ見えている世界

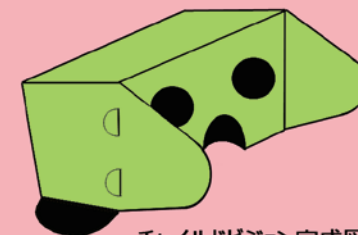
- ▶ 子どもは、身長が低く、目の高さも低くなります。さらに、目で見える範囲(視界・視野)が限られています。おとなが見ている世界とは違います。
- ▶ 幼児期のこの時期は、身近な人やものに集中する必要があるのです。それは、一度に多くの情報を取り込まないためです。
- ▶ 見えているものを、実際に手に取って触ってみたりすることによって、感覚を統合しようとしているのです。いろんなものに触って、自分の感覚を楽しみ、自分の経験が自分の考えるものになる時期です。
- ▶ 成長とともに、見える範囲や見える量が広がっていきます。おとなとは見え方が違うということは、おとなとは感じ方が違うということです。

制作協力：テラダクラフトスタジオ 寺田松雄

作り方

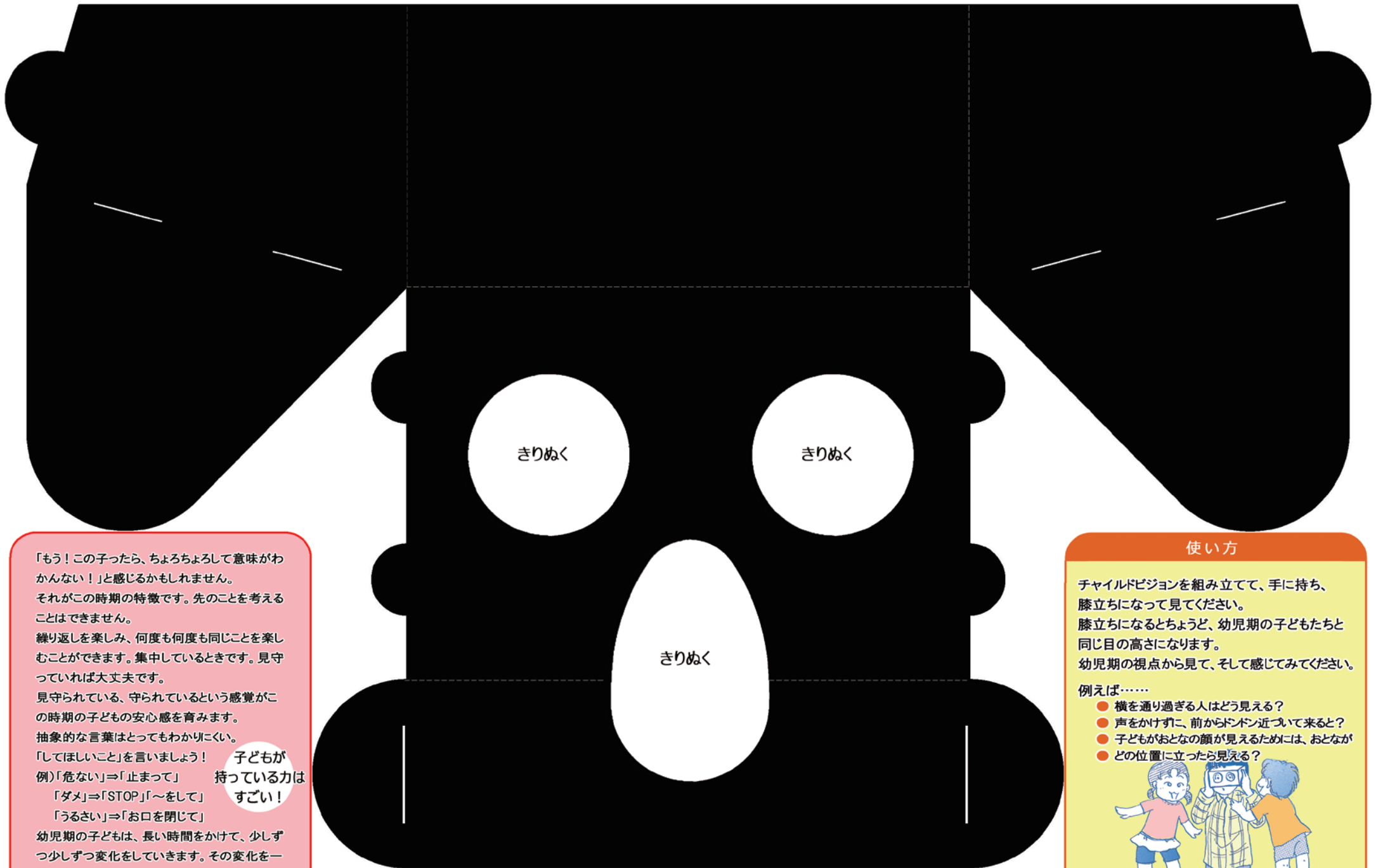
- 切りとり線
- 折り線 (すべて山折り)

このファイルを厚紙などにプリントアウトし、表面(緑色)と裏面(黒色)が合うように組み立ててください。
A4サイズ1枚でプリントアウトできない場合は若干縮小してみてください。



チャイルドビジョン完成図

※チャイルドビジョンは、おとなが“子どもの視点”を意識することを目的に作成したものです。



「もう！この子ったら、ちよろちよろして意味がわかんない！」と感じるかもしれません。

それがこの時期の特徴です。先のことを考えることはできません。

繰り返しを楽しみ、何度も何度も同じことを楽しむことができます。集中しているときです。見守ってあげれば大丈夫です。

見守られている、守られているという感覚がこの時期の子どもの安心感を育みます。

抽象的な言葉はとってもわかりにくい。

「してほしいこと」を言いましょ！

例)「危ない」⇒「止まって」

「ダメ」⇒「STOP」「～をして」

「うるさい」⇒「お口を閉じて」

幼児期の子どもは、長い時間をかけて、少しずつ少しずつ変化をしていきます。その変化と一緒に楽しんでみませんか。

子どもが

持っている力は

すごい！

使い方

チャイルドビジョンを組み立てて、手に持ち、膝立ちになって見てください。
膝立ちになるとちょうど、幼児期の子どもたちと同じ目の高さになります。
幼児期の視点から見て、そして感じてみてください。

例えば……

- 横を通り過ぎる人はどう見える？
- 声をかけずに、前からドンドン近づいて来ると？
- 子どもがおとなの顔が見えるためには、おとなが
- どの位置に立つたら見える？

